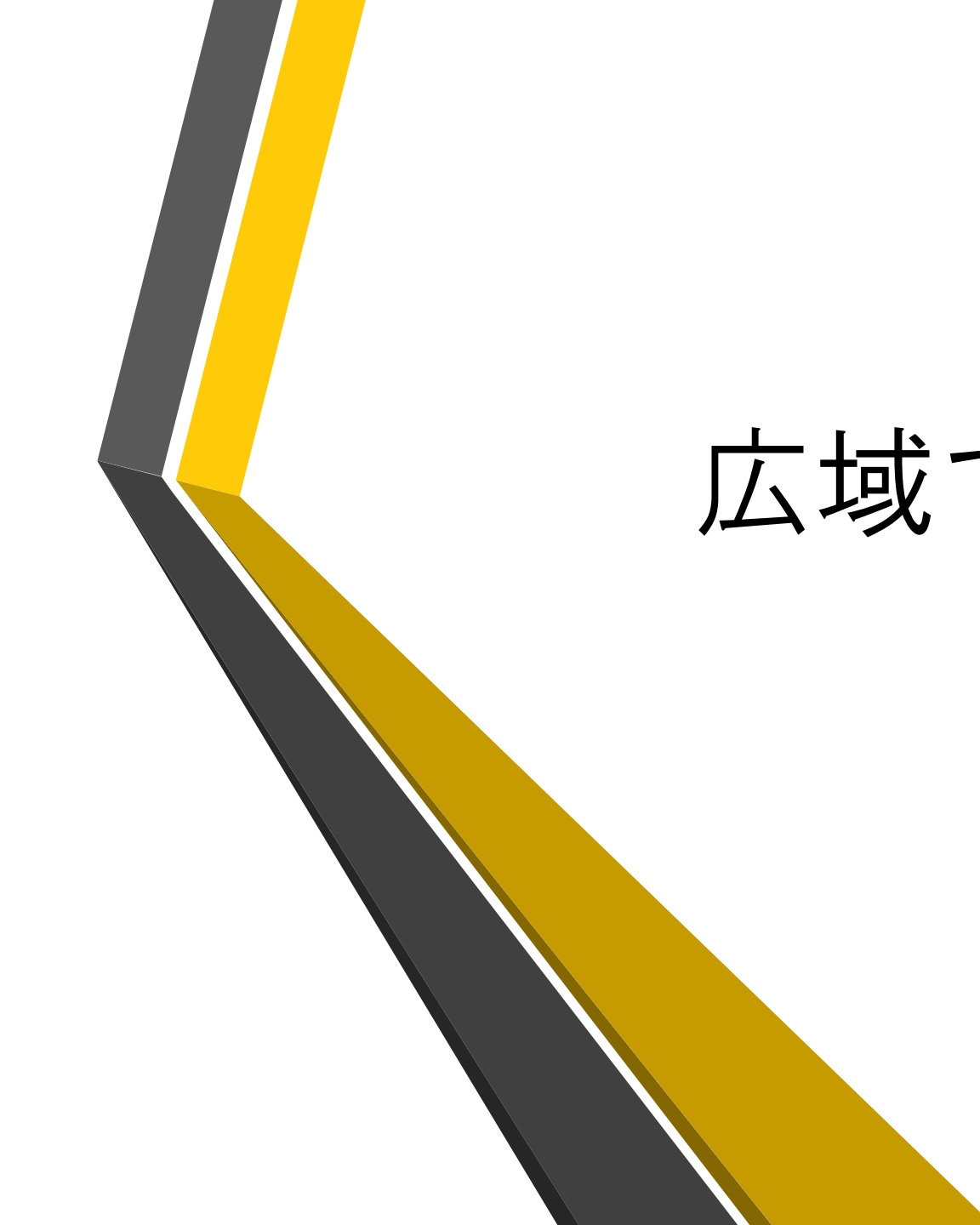




オリパラに向けた 広域での官民連携の動き

小田原市企画部企画政策課

オリンピック・パラリンピック推進係

主査 阿部隼人

神奈川県西部地域（県西地域）

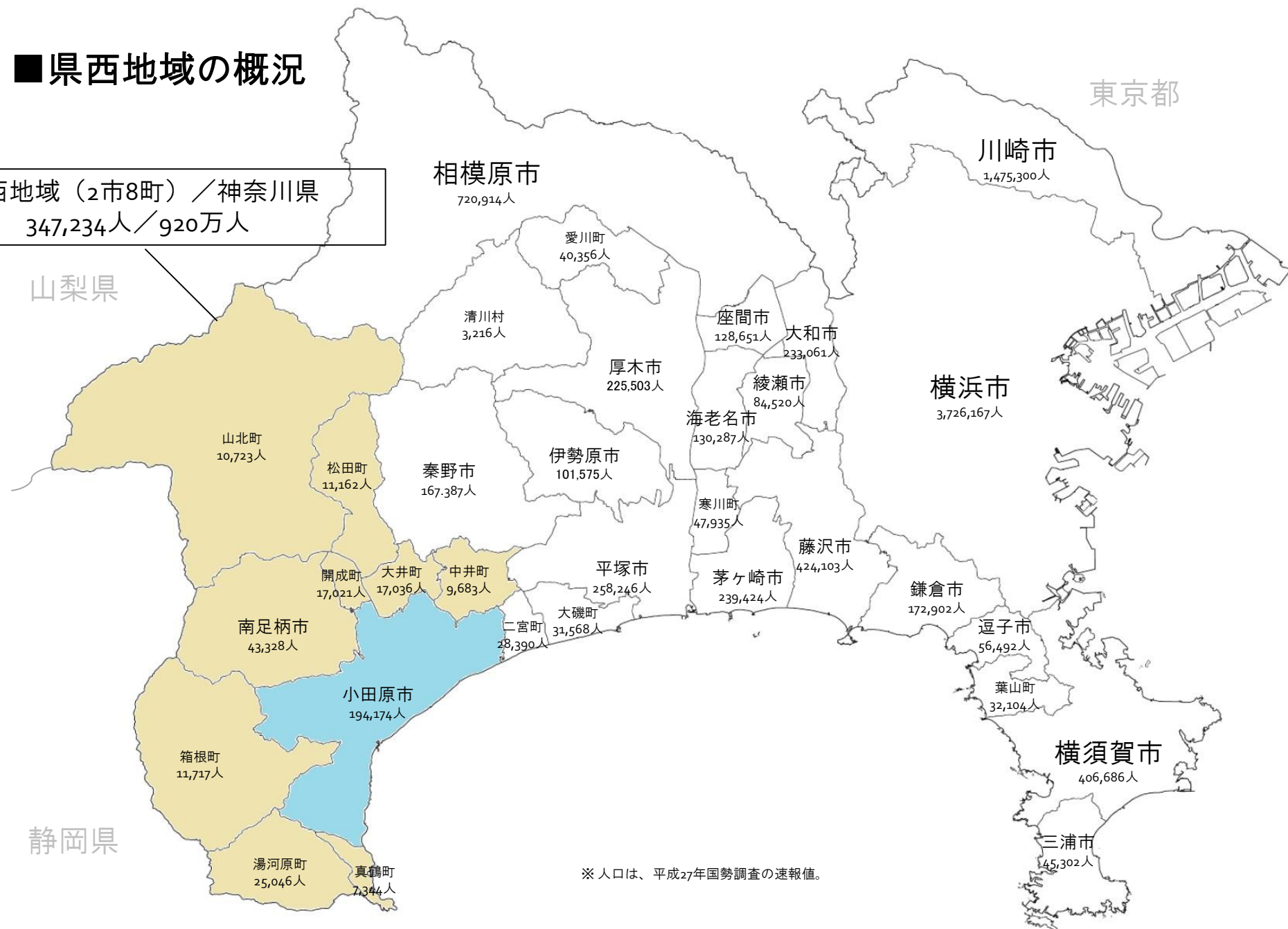
- 神奈川県の西部に位置し、東京から約80kmの距離。
- 小田原市を中心に1市8町（南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）が取り巻くように位置している。
- 首都圏でありながら海・山・川などの自然が多く残っている。
- 日本有数の観光地である箱根や湯河原など観光業が盛んな地域もある。

■県西地域の概況

県西地域（2市8町）／神奈川県
347,234人／920万人

山梨県

静岡県



※人口は、平成27年国勢調査の速報値。

オリパラに向けた取組

- 小田原市ではオリパラに向けた取組の検討を平成26年に開始。
- 8月に庁内における取組として、「東京オリンピック・パラリンピックおだわらプロジェクト推進会議」を設置。
- 10月に広域（県西地域2市8町）における官民の取組として、「東京オリンピック・パラリンピック神奈川県西部連絡会」を設置。

県西地域
における
官民の取組

東京オリンピック・パラリンピック神奈川県西部連絡会

【設置日】平成26年10月31日

【発起人】小田原市、箱根町、小田原箱根商工会議所、公益財団法人小田原市体育協会

【趣 旨】2020年東京大会の機会を捉え、スポーツ・文化振興、地域経済活性化や観光振興などを多様な主体により推進するため、情報共有をはじめ、各主体の取組や連携等について検討するとともに、その実現に向けた取組を行う。

全 体 会

【参画団体】

県西地域（2市8町）の官民67団体

＜主なメンバー＞

自治体・観光協会・商工会議所・商店街連合会・鉄道・メディア・旅行・体育協会などの各種団体

（※詳細は次ページ参照）

【運営】

発起人である小田原市が事務局

スポーツ・文化振興分科会

【参画団体】24団体

【検討結果】・スポーツや文化を楽しむ機会の創出、健康増進
・障がい者スポーツの振興
・未来のアスリート育成・支援
・子どもたちの国際交流
・事前キャンプ地誘致の実現
・スポーツボランティアの充実 等

経済活性化・観光振興分科会

【参画団体】54団体

【検討結果】・外国人観光客誘致及び環境整備（Wi-Fi等）
・地域資源の活用（連携や新たな魅力発掘）
・おもてなし環境の整備
・地場製品のPRや活性化イベントの開催
・2020東京大会を契機とした世界への情報発信 等

(参考) 西部連絡会のメンバーリスト

NO.	団体名	NO.	団体名	NO.	団体名	NO.	団体名
1	伊豆箱根鉄道株式会社	18	小田原ガイド協会	35	神奈川県タクシー協会小田原支部	52	南足柄市社会福祉協議会
2	小田急箱根ホールディングス株式会社	19	小田原蒲鉾協同組合	36	県西クリエイティブチーム	53	南足柄市商工会
3	株式会社小田原魚市場	20	小田原市観光協会	37	湘南ベルマーレフットサルチーム	54	山北町観光協会
4	近畿日本ツーリスト株式会社	21	小田原市自治会総連合	38	スペシャルオリンピックス日本神奈川小田原	55	山北町体育協会
5	株式会社ジェイコム小田原	22	小田原市地場産業振興協議会	39	星槎箱根スポーツクラブ	56	湯河原町商工会
6	株式会社T-FORESTRY	23	小田原市社会福祉協議会	40	橘商工会	57	林青会
7	東海旅客鉄道株式会社 小田原駅	24	小田原市障害者福祉協議会	41	箱根温泉旅館協同組合	58	小田原市
8	日本インジェクタ株式会社	25	小田原市商店街連合会	42	箱根物産連合会	59	南足柄市
9	ネイチャートレイル	26	小田原市体育協会	43	箱根町観光協会	60	中井町
10	東日本旅客鉄道株式会社 小田原駅	27	小田原食品衛生協会	44	箱根町体育協会	61	大井町
11	ヒルトン小田原リゾート&スパ	28	小田原青年会議所	45	街かど博物館館長連絡協議会	62	松田町
12	株式会社ミクニ 小田原事業所	29	小田原箱根商工会議所	46	まち元気小田原	63	山北町
13	三菱化学ハイテクニカ株式会社 小田原テクノセンター	30	小田原ブランド元気プロジェクト	47	松田町観光協会	64	開成町
14	Meiji Seika ファルマ株式会社 足柄研究所	31	小田原プロモーションフォーラム	48	松田町社会福祉協議会	65	箱根町
15	足柄上商工会	32	小田原まちづくり応援団	49	松田町体育協会	66	真鶴町
16	大井町体育協会	33	小田原名産漬物工業組合	50	真鶴町商工会	67	湯河原町
17	小田原青色申告会	34	小田原やんべえ倶楽部	51	南足柄市観光協会	68	(オブザーバー) 神奈川県県西地域県政総合センター

※赤字はコアメンバー

民の主導による組織の構築

- 西部連絡会で一定のとりまとめを行ったのちに民間メンバーから発意により、具体的な推進を図っていくためのコアメンバーによる新たな検討体制の構築の提案と呼びかけがあった。
- コアメンバーで話し合いを重ねる中で、国としての日本版DMO設立の動きにもマッチし、小田原箱根地域が強いリーダーシップを発揮し“県西地域”が国内外の多くの人から選ばれる地域ブランドとなるために、エリア全体を俯瞰してマネジメントできる組織へと発展改組するため、広域連携DMOの設立を目指すこととした。

平成27年6月

**西部連絡会
コアメンバー会議**

平成28年2月

**県西版DMO
設立準備会**

平成28年6月

県西版DMO

県西版DMOの設立

- 県西地域への誘客促進を目的に、平成28年6月に広域連携DMOとして「一般社団法人かながわ西観光コンベンション・ビューロー」を設立。
- 平成29年11月、日本版DMOの第一弾（全41法人）に登録。
- 平成30年12月現在、会員数は63団体。（行政、観光協会、商工会、交通、金融、メディア、観光、飲食業など業種は様々）
- 役員及び事務局は民間出身者。（行政は1メンバーとして参画）

かながわ西観光コンベンション・ ビューローの活動状況

目標：2市8町全域の観光総数のUP

- 徹底した市場調査に基づいた全体戦略の策定
- 県西地域ブランドのけん引役としての一貫したプロモーションの展開
- 2020年に向けた広域観光周遊ルートの形成
- プロダクト充実のための開発を行う民間業者の育成とその動きの喚起

具体的な取組

- 毎月1回、例会での情報交換とワーキンググループ活動
- 観光庁の補助金を活用したガイド人材育成事業
- 観光情報誌やエリアマップの制作 など

その他、RWC2019・東京2020大会に向けて小田原市がラグビーオーストラリア代表のトレーニング拠点となったことを契機として、インバウンドターゲット国の一つに「オーストラリア」を加えるなど、自治体の事業とも連携しながら活動している。